

聴覚障害者及び視覚障害者のための大学

筑波技術大学ニュース

第 43 号

発行日：2019 年 4 月

www.tsukuba-tech.ac.jp



国立大学法人
筑波技術大学



● 石原 保志学長 就任のご挨拶



筑波技術大学は聴覚障害者、視覚障害者のための高等教育機関として1987年に三年制短期大学として設立され、2005年に四年制大学となり現在に至っております。教育に関しては、少人数教育の下、多様な発達の特性の学生の実態に即した学修者本位の教育が、授業だけでなく学生生活の様々な場面で展開されています。

近年、大学に進学する障害者の数は増加の一途を辿っており、障害学生が学ぶ高等教育機関では合理的配慮を具現化する方策が検討、実施されるようになってきました。このような社会的変化の中で、筑波技術大学の教育における強みは何か。それは、他大学が障害学生の学修、学生生活における活動参加上の不利益を補うことを、いわゆる障害学生支援と位置づけているのに対して、筑波技術大学は障害を補償するだけではなく、学生の潜在能力を顕在化させ、知の基盤となる情報を意図的に付加するといった“教育的支援”を行っているということです。聴覚や視覚に障害がある学生に情報を確実に伝達する、情報を知識として吸収し多分野の知識を統合する、そして知識を知恵に昇華させていくという、教育の本質的役割あるいは機能を、筑波技術大学では特に意識して実践しています。この実践を通して培われた知見は、本学の研究を通して社会に公開されており、また本学が中核となって行っている他大学の障害学生支援に役立てられています。

2019年度から開始する社会人障害者を対象としたリカレント講座では、従前の卒業生対象講座で得られたノウハウを基に、学校卒業後の障害者全般の生涯学習のニーズに応じていくとともに、高大連携事業及び企業等と連携した事業をいっそう充実させることで、理念にとどまらない実質的なインクルーシブ社会の実現に貢献していきます。

国立大学法人筑波技術大学 第4代学長 石原 保志

－石原学長略歴－

昭和 62 年 筑波大学大学院修士課程教育研究科障害児教育専攻 修了(教育学修士)

平成 17 年 博士(心身障害学)(筑波大学)(論文博士)

昭和 63 年 茨城県立霞ヶ浦聾学校 教諭(昭和 63 年 3 月まで)

平成 元 年 筑波技術短期大学教育方法開発センター 助手

平成 17 年 国立大学法人筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター障害者支援研究部 教授

平成 23 年 国立大学法人筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター長

平成 25 年 国立大学法人筑波技術大学副学長(平成 27 年からは大学院技術科学研究科長兼任) 現在に至る

● 大越 教夫学長 退任のご挨拶



平成 27 年 4 月から平成 31 年 3 月までの 4 年間、筑波技術大学の学長を努め、この間、皆様方より温かいご指導、ご協力をいただきました。心から御礼申し上げます。

この 4 年間は、運営費交付金削減、18 歳人口の急激な減少という社会的背景の中で、「四半世紀にわたる聴覚・視覚障害学生に対する教育ノウハウと情報保障技術を基礎としたナショナルセンター機能を強化し、両障害者のための中核的役割を果たすこと」を機能強化の目的とし、「学生が主役として活躍できる大学」を目指して大学の管理・運営を実践して参りました。この間、国立大学法人評価委員会の評価、大学機関別認証評価、機能強化経費の評価など、教育・研究・社会貢献に対する取組に加え、PDCA サイクルの重要性を再認識することが多い日々でした。

教育的には、本学の独自の「アカデミック・アドバイザー制度」に加えて、少人数教育の利点を生かした「アクティブ・ラーニング」を推進し、卒業時にはほぼ 100% という高い就職率を継続できたことは、本学の最も大きな強みです。また、医療系の国家試験への対応も年度による差はあるが、平成 30 年度は理学療法士、鍼灸あん摩マッサージ師全てにおいて多数の合格が見込まれ、有終の美を飾ることができる予定です。

平成 30 年 1 月、「国際交流加速センター」を設置し、学生の短期留学、留学生の受け入れ、English Lounge、英検・TOEIC 対策など、グローバル教育の充実・推進の体制が整備されました。また、天久保キャンパスには「総合研究棟」を建設し、情報アクセシビリティ専攻、産業技術学専攻を中心に大学院教育・研究の実践の場として大いに活用されています。その「総合研究棟」には研究成果報告、他大学の障害者支援、国際交流などの展示室も設け、本学をアピールする場としても活用しています。春日キャンパスには、「附属東西医学統合医療センターの西棟」が完成し、リハビリテーション科および鍼灸・あん摩マッサージ外来の充実により、学生教育や地域医療への一層の貢献ができました。特に、「あん摩・マッサージ・指圧外来」は高等教育機関としては全国初であり、本学の大きなアピールポイントの一つとなっております。

本学は、「聴覚・視覚障害者のためのオンリーワンかつ最高の大学」でありつづけることが使命となっています。その中で、卒業生・修了生が社会で大いに活躍し、「筑波技大は最高の大学だ」と言ってもらえるような伝統が根付くことを願って、退任の挨拶と致します。

国立大学法人 筑波技術大学 第 3 代学長 大越 教夫

● 学生の活躍

日本知能情報ファジィ学会 (SOFT) 学会誌表紙デザインコンペで受賞

9月4日、本学産業技術学部総合デザイン学科視覚伝達デザイン学領域三年生の横山 陽香さんが、日本知能情報ファジィ学会の主催による学会誌表紙デザインコンペにおいて、受賞いたしました。

日本知能情報ファジィ学会は2019年に30周年を迎え、近年電子版のみで発行されておりました論文誌と学会誌をひとつの冊子とし、A4版としてリニューアル発行することとなりました。これを記念して表紙デザインが一般公募され、横山さんは総合デザイン学科の授業、視覚伝達デザイン論・演習B(広告・PR)の演習課題として本コンペに取り組み、受賞しました。

日本知能情報ファジィ学会学会誌編集委員会による受賞理由は以下の通りです。

「30周年の節目を迎え、新たに学会が飛翔することをイメージできるデザインとして編集委員の意見が一致した。」

受賞作品は、学会誌「知能と情報」の表紙として2019年から活用されています。

(産業技術学部総合デザイン学科)



賞状を手にする横山さん(中央)と、
櫻井学会誌編集委員長(左)、及び林勲会長(右)



受賞作品と横山さん

学生優秀発表賞・社会福祉奨学金を受賞



写真(上)
賞状を持つ
中原さん



写真(下)
賞状を持つ
加藤さん

大学院技術科学研究科産業技術学専攻の中原 夕夏さんが一般社団法人日本音響学会2018年春季研究発表会において、「音バリアフリーの分野で行った「聴覚障害者の拍理解に有効な楽器音—主観評価の分析—」というタイトルの発表に対し、学生優秀発表賞を受賞しました。音響学会ではこれまで、聴覚障害者を被支援者とする研究が多く発表されてきました。より多くの聴覚障害者に音楽を楽しんでもらいたいという、聴覚障害の当事者による研究が学会で認められたことは大きな意義があります。

また、同専攻の加藤 優さんが「聴覚障害児のための環境音学習システムで用いる効果的な視覚情報に関する研究」という研究課題で、2018年度一般社団法人大学女性協会社会福祉奨学金を受賞しました。加藤さんは大学4年生の特別研究で、聴覚障害児の環境音学習をテーマにした研究に取り組み始め、聴覚障害を持つ多くの児童に環境音の理解をしてもらいたいという強い気持ちから社会人経験後に研究を再開しました。修士課程在学中の2年間は熱意をもって研究を進め、海外での発表も含め、積極的に研究会に参加し、自分の研究を発信しました。

(大学院技術科学研究科産業技術学専攻)

Alexa スキルアワード 2018 でファイナリスト賞を受賞



ファイナルイベントでプレゼンテーションを行う杉崎さん

9月29日、保健科学部情報システム学科3年生の杉崎信清さんが、Alexa スキルアワードのファイナリスト賞を受賞しました。

Alexa スキルとは、スマートスピーカー Amazon Echo 等で使える「追加拡張機能」です。スマートスピーカーは、対話型の音声操作に対応した AI アシスタントを利用可能なスピーカーで、AI スピーカーとも呼ばれます。音声で簡単に操作できることから、子ども、お年寄り、視覚障害者にも使いやすいデバイスと考えられます。杉崎さんは、独自の Alexa スキル「ハノイの塔トレーニング」を開発し、このスキルで受賞しました。365 作品の応募のなかからファイナリストに選ばれたのは 24 作品のみです。



クリスタルトロフィーを手にする杉崎さん

ファイナルイベントでは、200 名以上の観客の前でのプレゼンテーションやデモを行い、会場からは「学生でここまで出来るのか」「視覚障害者でも開発可能なのか」など驚きの声が多くあがっていました。残念ながら最優秀賞や部門賞等の受賞は叶いませんでしたが、ファイナリスト賞のクリスタルトロフィーを獲得しました。

視覚障害者の可能性を拓く受賞であったと思います。

(保健科学部情報システム学科)

課外活動で本学学生が活躍

9月15日 土曜日、つくば市ふれあいプラザの多目的ホールで開催された落語会で、保健科学部保健学科鍼灸学専攻の加藤 健太郎さんが高座に上がりました。加藤さんは11月3日 土曜日に、本学春日キャンパスで行われた学園祭でも落語会を行い、訪れた人を楽しませました。写真は、過去に出場した落語大会での加藤さんです。

(保健科学部保健学科)



過去に出場した落語大会での加藤さん

基本情報技術者試験に点字受験で合格

経済産業省が主催する国家試験「情報処理技術者試験」区分の一つである平成30年度春期基本情報技術者試験を、本学保健科学部情報システム学科の3年杉崎 信清さん(写真左)と4年長谷川 颯さん(写真右)が、点字受験で合格し、本学部初の点字受験合格者となりました。

基本情報技術者試験の点字受験は点字化された問題冊子が用意され、特別措置により試験時間が一般受験者より1.5倍に延長されて、午前と午後を合わせて7時間30分にも及びます。設問混じりのプログラムリストや図表を点字や触図で理解することや、試験勉強するための点字教材が少ないことにも苦労したとのこと。

長谷川さんは将来、IT エンジニアとして、あらゆるものやサービスがインターネットで結ばれた、情報バリアのない住みやすい社会の実現に貢献したいそうです。また、杉



合格証書を手にした杉崎さんと長谷川さん

崎さんは将来、誰もが使いやすい web コンテンツの作成に携わりたいそうです。

(保健科学部情報システム学科)



筑波技術大学の教育研究活動に対し、平素より温かいご理解と多大なるご支援を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

筑波技術大学基金は、聴覚・視覚障害者として社会で活躍できる人材の育成に資することを目的として、学生の様々な活動を支援しています。本基金の趣旨をご理解いただき、格段のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

基金には2種類あり、それぞれ以下のような事業を行っています。

教育研究活動支援基金

1 学生の教育・研究活動等への支援

(1) 教育・研究活動支援

臨床実習や教育実習の補助金の支給など

(2) 課外教育活動支援

国際大会出場費用の支給や学園祭助成など

(3) 社会貢献活動支援

ボランティア活動助成など

(4) 就職活動支援

模擬試験等の実施など

(5) 学生表彰

双峰賞、学長賞の授与

2 外国の大学等との教育交流・本学受入留学生への支援

3 その他基金の目的達成に必要な支援

修学支援基金

1 授業料相当額の支給

2 奨学金の支給

3 海外への留学費用の支給

4 ティーチングアシスタント等としての学生の雇用



◎ご寄附の方法(概要)

1 寄附金のお振込み

・ゆうちょ銀行・常陽銀行でのお振込み

本学所定の振込用紙を、下記問合せ先よりお取り寄せのうえ、窓口にて払い込み手続きをお願いいたします。

・ゆうちょ銀行・常陽銀行以外の金融機関でのお振込み
(ATM、インターネットバンキング含む)

下記問合せ先へご連絡ください。必要な手続きをご案内いたします。

<振込先>

金融機関名	支店名	口座種別	口座番号
常陽銀行	研究学園都市支店	普通預金	3664034
ゆうちょ銀行	〇一九店	当座預金	00140-8-330585

※口座名は、以下のとおりです

常陽銀行…筑波技術大学基金

ゆうちょ銀行…国立大学法人筑波技術大学

2 「寄附金領収書」の発行

確定申告の手続き等に必要ですので、大切に保管していただきますようお願いいたします。

◎税法上の優遇措置が受けられます。

◎本学ホームページ等にお名前を掲載いたします。

(匿名希望者を除く。)

詳細については、下記へお問い合わせください。

皆様の個人情報、適切かつ厳重に管理し、本学基金業務のみに使用します。

【お問合せ先】筑波技術大学 総務課 〒305-8520 茨城県つくば市天久保 4-3-15

TEL 029-858-9416 FAX 029-858-9312 E-mail kikin@ad.tsukuba-tech.ac.jp URL <https://www.tsukuba-tech.ac.jp/kikin/>

● スポーツ観戦における「ISee TimeLine」実験を実施

ISee (Information Support of Everyone, by Everyone, for Everyone) プロジェクトは、筑波技術大学や筑波大学など複数の大学が参加する共同研究で、障害の有無によらず、お互いができることを少しずつ行って、総体として情報保障を行う仕組みの構築を目指しています。その一つの応用として、視覚障害者、聴覚障害者のスポーツ競技やパラスポーツ、その他のマイナースポーツなどにおいて、視覚障害者や聴覚障害者が競技の場での観戦を楽しむために、競技の様子をより手軽に得ることを目標とするシステム (ISee TimeLine) の開発を行なっています。

これまで、2020 パラリンピック競技であるウィルチェアラグビーやパラ卓球、茨城ゆめ国体 2019 のデモンストレーションスポーツの一つであるスポーツ鬼ごっこなどでシステムを用いた情報保障実験を行ってきました。平成 30 年度も様々なスポーツ競技で情報保障実験を行い、スポーツの種類による入力情報の違いなどを検証しました。10 月 7

日 日曜日は、茨城ゆめ国体 2019 のデモンストレーションスポーツの一つであるスポーツ鬼ごっこで、10 月 10 日 水曜日は、ハンドボールの試合でシステムを用いた情報保障実験を行いました。いずれもあまり競技人口が多くない競技でルールを知らない人も多いため、詳しい人に試合の状況を解説していただき、観戦をより楽しいものにしました。他に、体操競技や車いすバスケットなどでも実験を行いました。

写真 (左) は 7 月 29 日 日曜日、筑波大学体操競技部の試合会における実験の様子です。写真 (中央) は 10 月 7 日のスポーツ鬼ごっこでの実験の様子です。手前に座っている方の PC で入力した情報が奥に座っている方のスマートフォンに表示されています。写真 (右) は 10 月 10 日ハンドボールでの実験において ISee TimeLine を使用して作成した内容の一部です。

(産業技術学部産業情報学科 平賀 瑠美)



● 「視覚障害教育の集約と発信」講演会を開催

10 月から 2 月にかけて、春日キャンパスにおいて「視覚障害教育の集約と発信」講演会を開催いたしました。本講演会は、「視覚障害学生の教育に関する学内外の知識・技能の横断的集約と発信」をテーマとして掲げ、支援センター視覚障害系教員有志一同で企画し、障害者高等教育研究支援センター教育研究等推進経費事業により実施したものです。

10 月 3 日の第 1 回講演会では、東京大学バリアフリー教育開発研究センターの星加 良司先生をお招きし、「ディスプレイと高等教育の両価性」と題してご講演いただきました。教職員、学生等 30 名の参加があり、関心の高さがうかがえました。

12 月 5 日の第 2 回講演会では、眼科医であり、株式会社 Studio Gift Hands 代表取締役でもある三宅 琢先生をお招きし、「ICT 機器を用いたあたらしいビジョンケアと神戸アイセンター構想」と題してご講演いただきました。参加した春日キャンパスの教員から、視覚障害者向けの技術や教育に関する多くの質問がありました。

2 月 21 日の第 3 回講演会では、春日キャンパスにおいて、鈴木 昌和先生 (九州大学大学院数理学研究所 名誉教授、認定 NPO 法人サイエンス・アクセシビリティ・ネット代表)

をお招きし、「NPO サイエンス・アクセシビリティ・ネットによる障害者支援の現状と今後の展望」と題してご講演いただきました。長年続けてこられた、理数文書のアクセシビリティに関する研究から視覚障害のある子供達に対する活動まで、幅広い分野に渡るお話があり、参加した春日キャンパスの教職員は熱心に耳を傾けていました。

(障害者高等教育研究支援センター

田中 仁、金堀 利洋、宮城 愛美)



- ・写真上段左
第 1 回講演会
- ・写真上段右
第 2 回講演会
- ・写真下段
第 3 回講演会



● 受賞



9月12日 水曜日に産業技術学部産業情報学科の倉田 成人教授が、電子情報通信学会通信ソサエティにおいて「ASN 研究専門委員会 建築学会、土木学会とのリエゾンとしての貢献」に対して活動功労賞を受賞しました。同賞は、その活動に多大な貢献をされた方にその労をねぎらい、感謝の意を表するために贈られるものです。

写真は、贈呈された賞状です。

なお、大学ホームページに倉田 成人教授の研究紹介ページがございますのでぜひご覧ください。

◎ホーム > 研究・産学連携

> 注目の研究～Notable Research of NTUT～

> vol.1：高精度時刻情報を保持可能な自律型

IoT センサ (H30.7.2)

<https://www.tsukuba-tech.ac.jp/research/notable/20180702.html>

産業技術学部産業情報学科の田中 晃講師が、APCS (Asian Pacific Conference on Shell & Spatial Structures) 2018 より Full Paper Award を受賞しました。Full Paper Award は、「a) technical excellence」「b) innovation」「c) significance to the research community」「d) clarity of presentation」の基準に基づいた審査の結果、最も基準を満たした研究に対して与えられる賞です。

今回の受賞は、田中 晃講師の「Proposal of String Crescent Structure - About concept and structural characteristic for String Crescent Structure -」に関する研究に対して、授与されました。



写真は、上が APCS からの賞状、下が 10 月 29 日、30 日にマレーシアで開催された APCS2018 後に同会場にて行われた授賞式の様子です。

なお、受賞となった研究内容は、平成 29 年 1 月 20 日付の「特許第 6078251 号：建築ユニット、建築構造物及び建築方法」において特許原簿に登録されています。



11 月 24 日 土曜日に開催された、第 2 回茨城テックプランター最終選考会において、本学産業技術学部総合デザイン学科の鈴木 拓弥准教授が企業賞 (株式会社フォーカスシステムズ賞) を受賞しました。

茨城テックプランターとは株式会社リバネスの企画・運営のもと、数多くの研究機関が集積している茨城県で、新たな産業を創出しようとする科学技術やビジネスシーズを発掘するプログラムです。筑

波大学や産業技術総合研究所などの茨城県内の大学・研究機関から計 28 チームがエントリーし、鈴木准教授の「複数音声と同時に字幕提示するインタフェースに関する研究」がファイナリストの 9 チームに残り、最終審査に臨みました。

最終審査では持ち時間の合計 15 分間でプレゼンテーションと質疑応答を行い、鈴木准教授のプレゼンテーションに興味・関心を持った審査員から多くの質問がありました。質疑応答や審査では、聴覚障害者支援に立脚しながらも、より広範囲に利用可能なコミュニケーションプラットフォームに発展する可能性が評価されました。来場者を対象とした会場投票でも 2 位を獲得し、審査員のみならず会場からも高い評価を得られました。

写真は、左がプレゼンをする鈴木准教授、右が授賞式の様子です。

(総務課)